

『プラスチックによる海洋汚染：有害化学物質とその生物影響』

国際シンポジウムを東京農工大学で開催します

深刻化する海洋ごみ問題への地域における取り組みには、海洋ごみ問題に高い意識を持った地域リーダーの育成が不可欠です。そのために、科学はどのように支援できるのか、地域住民と行政の意識改革を通じての地域環境力（H18年環境基本計画）の向上に科学が果たせる役割は何か。海洋ごみ問題に関する科学研究成果の地域への普及により海洋ごみ対策の促進が図られることを目指し、地域住民、NGO/NPO、事業者、行政関係者を対象に、海洋ごみ問題にかかわる環境学習の場となる「海ゴミ・サイエンスカフェ」を、国内各地で継続的に開催しています。

今年度はじめての「海ゴミ・サイエンスカフェ」を下記のとおり開催します。

みなさまのご来場をお待ちしています。

“海ごみサイエンスカフェ” 国際シンポジウム プログラム

10：00～12：00

『海洋プラスチック問題についてのイントロダクション』 Charles Moore 氏（Algalita 海洋研究所）

『海洋でのプラスチックの動態と海岸漂着の予測、プラスチックに含まれる重金属とその起源』
磯辺篤彦氏（愛媛大学）

『海洋プラスチックに含まれる化学物資とその海鳥への移行』 高田秀重氏（東京農工大学）

14：00～17：00

『海鳥によるプラスチック取り込みの現状とその潜在的影響』 綿貫 豊（北海道大学）

『化学物質の野生生物への影響』 渡邊 泉（東京農工大学）

『ハワイ諸島への海洋プラスチック汚染の影響』 Hank Carson 氏（米国ハワイ大学ヒロ校）

『世界5大洋の漂流物収束海域におけるプラスチック汚染』 Marcus Eriksen 氏（Algalita 海洋研究所）

17：00～18：00

総合討論

【日 時】 2012年5月27日（日）午前10時～午後6時（午前9時30分開場）

【会 場】 東京農工大学 府中キャンパス農学部第一講義棟 25 番教室

アクセス <http://www.tuat.ac.jp/access>

【主 催】 東京農工大学農学部環境資源科学科、Algalita 海洋研究所

【共 催】 一般社団法人 J E A N

環境省推進費 B1007 海ゴミ研究プロジェクト（愛媛大学沿岸環境科学研究センター、九州大学大学院工学研究院・国土技術政策総合研究所）

* 参加無料 事前申し込みは不要ですので、当日直接会場へお越しください。（会場案内は裏面）

お問合せ：一般社団法人 J E A N 電話：042-322-0712 Email：cleanup@jean.jp

ここ数年、欧米を中心に、海洋を漂流したり、海岸に漂着するプラスチックの問題は社会的に大きな関心を集めています。その影響は、ウミガメや海鳥に対するものだけでなく、プラスチックが含む有害な化学物質の漏出、さらに海水からの有害化学物質を吸着・濃縮にも及んでおり、有害物質の運び屋になっている可能性も強く懸念されています。

今回、アメリカ西海岸で長年プラスチックによる環境汚染を調査している Algalita 海洋研究所の研究者を交え、海のプラスチック汚染の最新の知見の紹介、共有を通じて、広く一般の方々にも海のプラスチック汚染について知っていただく場として、本シンポジウムを開催します。

ポスターセッションも同時開催

International Pellet Watch (海岸漂着プラスチックを用いた地球規模 POPs モニタリング)

写真パネル「みんなの問題・海のごみ」

海岸漂着プラスチック中の有害化学物質

海鳥のプラスチック摂食と、そのプラスチックから海鳥組織への有害化学物質の移行・蓄積ほか

外国人の講演および総合討論には同時通訳をつけます。

昼食は、周辺の食堂等をご利用下さい。

会場案内

JR 中央線国分寺駅下車、南口 2 番乗場から「府中駅行バス(明星学苑経由)」
約 10 分「晴見町」バス停下車
京王線府中駅下車、北口バスターミナル 2 番乗場から「国分寺駅南口行バス(明星学苑経由)」約 7 分「晴見町」バス停下車